ラビット消防ポンプ

P382 S M

取扱説明書

Rabbit FIRE FIGHTING PUMP

本製品を取り扱われる前に必ず本書をお読み下さい。

富士ロビン株式会社

本製品の点検・整備については、可搬消防ポンプ整備資格者を有する整備事業所、特約店にご依頼下さい。

消火栓からの給水・及び中継送水について

1．消火栓からの給水

(1) 消火栓の給水能力
消火栓から給水をする場合は、その消火栓から放水に必要な水量が確保できるかを確認する必要があります。
消火栓の給水能力は消火栓の口径、配管状況、初期水圧などに左右され、それら相互の影響について考慮しなければなりません。例えば初期水圧の高い消火栓であっても口径が小さければ給水能力が不十分なこともあり、水圧が低くても口径が大きければ充分な給水能力を有していることもあります。

(2) 給水方法
(a) 給水圧力が高い場合に吸管が損傷する事があるので、ポンプへの給水には原則としてホースを使用し、中継用吸水口金具にて結合してください。
(b) 消火栓水利には土砂、小石等の異物が入っている場合があるので、ホースを結合する前に開弁、放水して除去してください。
(c) 消火栓の開閉弁は原則として全開し、給水圧力が特に高い場合にのみ開度を調節して下さい。
(d) エンジンを始動する前に一旦放水弁を開き、連成計圧力の変動を確認してポンプの運転方法を決定してください。
(e) エンジン始動後は、連成計の圧力が0．05MPa以上になるよう、スロットルを調節して下さい。

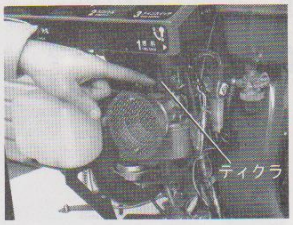
2．中継送水

山林火災や市街地火災で水利が遠くにある場合には、２台以上のポンプを直列につないで、中継送水をすることがあります。
中継送水時は水源近くのポンプ（親ポンプ）と、その前方につながれたポンプ（子ポンプ）を連動させて操作する必要があるため、通常の運転操作以外にも様々な注意点があります。

(1) 運転方法
① 親ポンプは、通常の操作で運転して下さい。但し、送水圧力は0．3MPa以上として下さい。
② 子ポンプは、あらかじめ放水弁を開いておいて下さい。親ポンプからの送水が到達したら圧力計を読み、運転を行うかどうかを判断します。
③ 子ポンプを運転する場合、スロットルの操作は徐々に行って下さい。また、連成計圧力が0．05MPa以下、圧力計圧力が1．0MPa以上にならない用に操作して下さい。
④ 送水を終了する場合、子ポンプからエンジンを停止してください。又、親ポンプからの送水が停止するまでは放水弁を閉じないで下さい。

(2) 注意事項
(a) 子ポンプの放水弁は、親ポンプからの送水中は絶対に閉じないで下さい。送水流路の急変動による衝撃（ウォーターハンマー）、及び高圧力により、ポンプの破損等の事故を起こす恐れがあります。

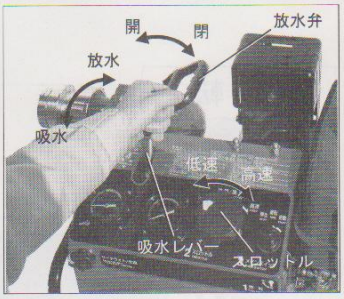
（注）1. 暖機運転後の再始動時などに、燃料過多によりエンジンのかかりが悪くなることがあります。そのような時はまずスロットルを全閉にし、始動させて下さい。それでも始動しないときは、一旦燃料コックを「閉」にして始動操作を行って下さい。始動後は燃料コックを「開」にして下さい。
2. リコイルスタータのロープは引ききらぬようにして下さい。
3. 吸水しない状態で、繰り返しエンジンの始動～停止を行わないで下さい。燃焼していない燃料混合気がマフラ内で爆発（アフタファイア）する恐れがあります。
4. 運転現場が寒冷地の場合は、ティクラを２～３秒押した後、セル又は、リコイルにて始動して下さい。



２．吸水・放水

(1) エンジン始動後、吸水レバー④を「吸水」方向に引き、真空ポンプを作動させて下さい。
(2) 真空ポンプの排気ホースより水が連続的に排出したら、吸水レバー④を「放水」方向に速やかに戻してください。吸水管の途中に凸部がある時はそこに空気溜りが出来ますので、３～５秒程長めに作動させてください。
(3) 筒先の安全を確認し、スロットル②を「始動・吸水」位置のまま放水弁をゆっくりと開いて下さい。放水開始後に、適切な放水圧力になるようスロットル②を調節して下さい。

注意



（注）1. 吸水高さが高い場合、放水弁を急激に開かないで下さい。
吸水管中の水が落水し、放水出来ないことがあります。又吸水高さが高くキャビテーションが発生する場合は、出来るだけスロットルを低速にして下さい。
2. ホース延長数、筒先口径、送水高さ、２線送水等により必要なポンプ圧力が異なりますので、筒先の放水圧力に対してポンプ圧力を決めて下さい。
3. 放水圧力が高すぎたり、放水弁の開閉を急激に行ったりすると管鎗が振られることがありますので注意して下さい。
4. 消火栓からの給水・中継送水を行う場合はP. 9「消火栓からの給水・及び中継送水について」を参照して下さい。
5. 水槽からの汲み出しや中継タンクへの送水などを行なう場合でも、筒先にノズルを必ず装着して運転して下さい。

３．放水の一時停止

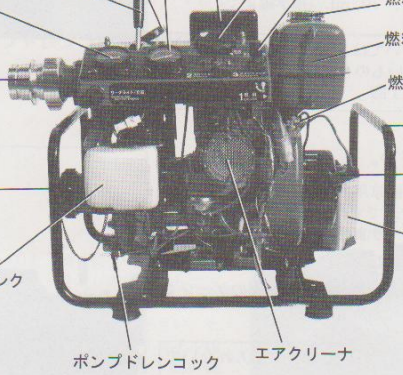
(1) 放水中のノズルの交換、或いはホース継ぎ換え等をする為に一時的に放水を停止する場合には、スロットルを「低速」にした後、放水弁を「閉」にすれば放水はとまります。
(2) 吸水管をそのままの状態で運転を一時停止する場合には、「４．停止」の操作要領でエンジンを停止して下さい。（この場合、落水しませんからエンジンを始動後、放水弁を開けば放水されます。）

各部の名称

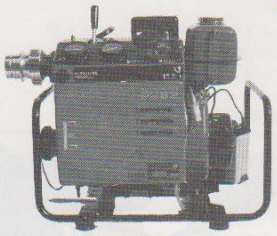
スロットル

P382M

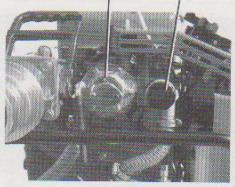
メインスイッチ



操作側（カバー取外し状態）



カバー装備状態



ポンプ側

御使用になる前に

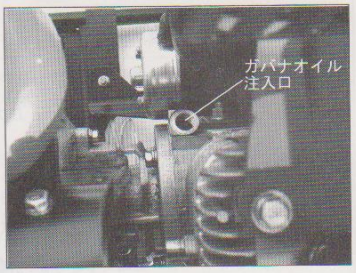
警告

(1) 同梱の標準装備品、付属品が揃っているか御確認下さい。
標準装備品：根元媒介接手、バッテリ（S）、充電器（S）
付　属　品：分解工具一式、ポンプ覆い、点火プラグ、取扱説明書（本書）

(2) （S）仕様は御使用の前にバッテリの結線が必要です。バッテリカバーを取外し、⊕端子、⊖端子の順にバッテリを接続してください。

運転準備

1．ガバナオイルを点検して下さい。



注意

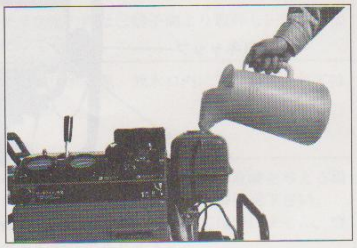
オイルゲージのネジ部をねじ込まず、指示線までオイルが入っているか確認して下さい。指示線より油面が低下していたら、オイルを補給してください。又汚れがひどい場合は、交換して下さい。

使用オイル： 自動車用モービルオイル
SAE＃30、
＃20（冬期）

規　定　量： 70 mL（指示線まで）

（注）1. 冬期寒冷地に於いては、SAE＃20又は10W30等の流動性の良いものを使用して下さい。
2. 交換の目安：年１回

2．燃料を入れて下さい。



注意

燃料タンクに自動車用ガソリンを入れて下さい。（※分離給油方式ですので、２サイクルオイルとの混合は必要ありません。）

タンク容量：４Ｌ

タンク内の燃料量は燃料タンク側面のゲージで確認することができます。

（注）1. 燃料はタンク注入口いっぱいまで入れないで下さい。
2. 長時間保管していた燃料で、刺激臭がしたり、濁っていたりする場合は、直ちに交換して下さい。
3. 燃料コックのカップにゴミ等がたまっている場合は掃除して下さい。

3．２サイクル専用オイルを入れて下さい。

危険

オイルタンクに２サイクル専用オイルを入れて下さい。

タンク容量：0.6Ｌ

（注）1. オイルは、注入口いっぱいまで入れないで下さい。
2. 安全のため、２サイクルオイルが不足するとエンジンが自動停止します.

ガソリン　4回　：　オイル　1回

4．ポンプを設置します。

以下のことを注意して下さい。

注意 (1) ポンプを移動するときは、正しく運搬ハンドルを持って運搬して下さい。

警告 (2) 枯れ草の上に設置しないで下さい。

(3) ポンプは出来るだけ吸水面に近い位置に設置し、吸水高さが少なくなるようにして下さい。又、なるべく水平になるように設置してください。
(4) 吸水管は空気溜りが出来ないように、ポンプ側に上り勾配になるようにして下さい。
(5) 吸水管の先にはストレーナ、藤かごを必ず取付け、土砂を吸い込む場合は藤かごの下にむしろを敷いて下さい。
(6) 藤かごは空気を吸い込まないように、水面下30 ㎝程に設置して下さい。
(7) 放水ホースは、折れのないようにとりまわして下さい。

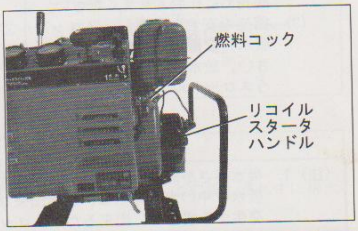
5．放水弁、及びポンプドレンコックを閉じて下さい。

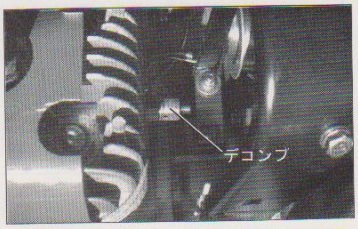
運　転

1．始　　動

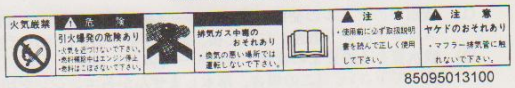
(1) 燃料コックレバー①を「開」にして下さい。
(2) スロットル②を「始動・吸水」の位置にして下さい。
(3) メインスイッチ③を「運転」にして下さい。セル始動時は更に「始動」まで回し、リコイル始動時はリコイルスタータハンドルを下記の要領で引いて下さい。

※本消防ポンプには、リコイルスタータハンドルの引き力を軽減する為、デコンプが装備されています。リコイルスタータハンドルを軽く引き出すとき、「シューシュ」と漏れ音がすればデコンプは正常に作動しています。漏れ音がしない場合は、デコンプ上部のクリアボタンを押して下さい。

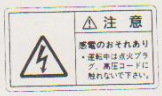




注意



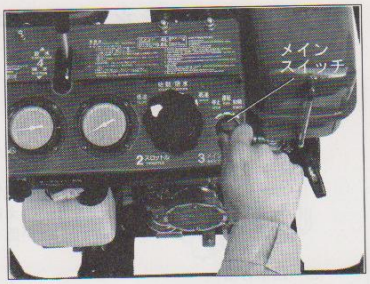
85095013100



85095013300

4．停　止

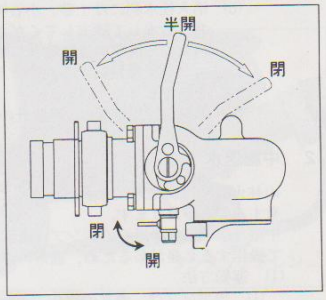
(1) スロットルを「低速」にし、放水弁を「閉」にして下さい。メインスイッチ「停止」にするとエンジンが停止します。



（注）1. スロットルを「低速」にせず、中～高速運転状態のままエンジンを停止しないで下さい。アフタファイアする恐れがあります。

5．保　管

(1) 放水弁を「半開」にし、放水弁、ポンプドレンコックを開き、完全に排水して下さい。排水後は忘れずに閉めて下さい。
(2) 燃料コックレバーを「閉」にして下さい。
(3) 吸水口キャップを取付け、ポンプ覆いをして保管して下さい。



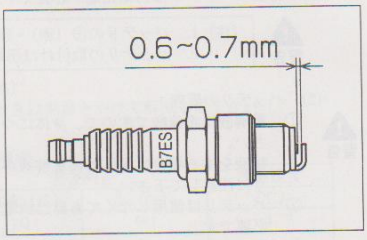
（注）1. 排水が不充分ですと、凍結による破損や腐食を起こす恐れがあります。
（放水弁が「閉」の場合、凍結による破損の恐れがあります。）
2. 泥水、海水を使用した場合には清水を通しポンプ内を洗浄して下さい。この後も忘れずに排水を行って下さい。
3. ポンプ格納庫は湿気の無いようにして下さい。
4. 月に１度、5～10分程度の放水運転を、スロットル高速で行って下さい。
5. 月に１度はバッテリの充電状態、電解液量を点検して下さい。又、保管中はバッテリの補充電を行って下さい。（→P. 11「５．バッテリ及び充電器の取扱」）
6. 長期保管時にはワンタッチドレンを開き、フロート室の燃料を抜いてください。（→P. 10「２．キャブレタ」）
又、燃料タンク内の燃料も３ヶ月以内に使い切るか、交換して下さい。
7. 寒冷時は不凍液をポンプに入れてください。（→P. 12「寒冷時の心得」）

整　備

1．点火プラグ

排気ガスやカーボンで汚れた電極部をきれいに掃除して下さい。
電極の間隙を調整して下さい。

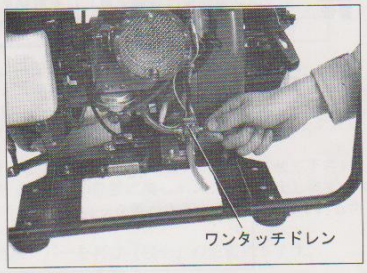
◇使用点火プラグ
NGK　B7ES
◇電極間隙
0．6～0．7mm



2．キャブレタ

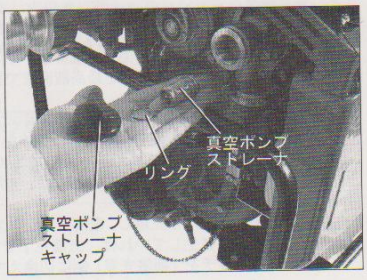
ポンプを長期保管する場合は、下記の要領でキャブレタフロート室の燃料を抜いて下さい。

① 燃料コックを閉じて下さい。
② ワンタッチドレンを開き、燃料を抜いて下さい。
③ 燃料が抜けたらワンタッチドレンを閉じて下さい。
④ 排出した燃料はウェス等で拭き取って下さい。拭き取ったウェスの処分には注意して下さい。



3．真空ポンプストレーナ

土砂又は藻のある場所での使用の後はストレーナキャップを外し、ストレーナを掃除して下さい。



4．Vベルト

Vベルトを点検して下さい。
亀裂、破損が無いか確認して下さい。

◇使用Vベルト
A－27

5．バッテリ及び充電器の取扱（S仕様）

(1) バッテリ
付属のバッテリは初期充電が必要です。電解液を注入し充電を行って下さい。

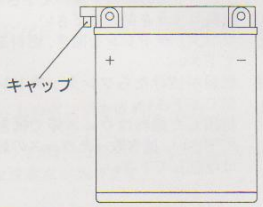
警告
（注）1. バッテリの⊕（赤）・⊖（黒）の配線を間違えないように注意して下さい。
2. バッテリの取付けは⊕端子より始め、取外しは⊖端子より行って下さい。

(2) バッテリの管理

警告
① 電解液は希硫酸ですので、身体につくと非常に危険です。補液時以外は液口栓を外さないで下さい。
補液をする場合は身体等に電解液が着かないよう注意して下さい。又、電解液をこぼさないように注意して下さい。
② バッテリは使用しなくても自己放電しますから、自己放電分とセルモータの消費分の補充電が必要です。
※自動車などと違い、運転しても充電量が少ない為、必ず充電器での充電を行って下さい。

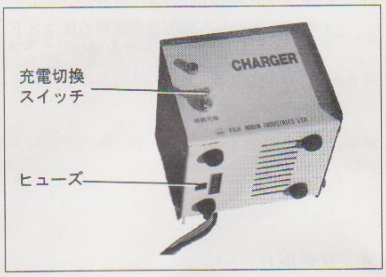
警告
③ 付属の充電器は普通充電と補償（バッテリ自己放電分の補充）充電の切換が出来ますので、ポンプ運転後は普通充電し、充電完了後はそのまま補償充電に切換えて下さい。
④ 時々電解液量を点検し、不足している場合は蒸留水を最高液面まで注入して下さい。

警告
（注）1. 本消防ポンプに使用しているバッテリは右記の個所にキャップがしてあります。キャップは、電解液を注入する前に必ず外して下さい。



(3) 充電方法

警告
① バッテリのちりやほこりを取り除き、端子部を清潔にして下さい。電解液が不足している場合は、蒸留水を最高液面まで注入して下さい。
② 充電器の出力プラグを本消防ポンプのコンセントに接続し、切換スイッチを「普通充電」側にして下さい。入力プラグをAC 100Vコンセントに接続すれば、充電を開始します。
③ １０時間ほど充電し、電解液中からガスが盛んに発生していれば、充電完了です。
スイッチを「補償充電」側に切換えて下さい。



（注）1. 充電中のセル始動で故障しないよう、充電器には保護回路を設けてありますが、長時間のセル始動操作は避けてください。
2. 過大電流が流れるとヒューズが切れます。
充電できない場合はヒューズを点検して下さい。
3. バッテリの耐用年数は約２年です。

寒冷時の心得

1．運転上の注意

(1) 使用燃料は良質のものを選んで下さい。
（良質のガソリン程、揮発性が高く始動し易い為）
(2) 真空ポンプが回るか確認し、万一凍結しているときは熱湯をかけて解凍して下さい。

2．格納、保管上の注意

(1) ポンプ本体、放水弁、真空ポンプ、マフラを凍結させないようにします。ポンプ使用後は水分を排除し、不凍液又はアルコール処理をして下さい。場合によっては温暖措置を講じて下さい。
(2) 不凍液を常時備えておくようにして下さい。
(3) バッテリの保守をよくして下さい。

◇不凍液

混合割合		凍結温度
不凍液（%）	水（%）	(℃)
10	90	−4．7
20	80	−10．7
30	70	−17．7
40	60	−27．7
50	50	−39．3

3．不凍液の入れ方

(1) 各部のドレンコックより完全に排水後、ポンプカバーキャップを締め付け、各ドレンコック及び放水弁を閉じて下さい。
(2) エンジンを始動後、吸水レバーを「吸水」の位置にして真空ポンプを30秒ほど作動させて下さい。連成計が十分負圧になっていたら、吸水レバーを「放水」の位置に戻しエンジンを停止します。負圧にならなければ、再度ポンプカバーキャップ、ドレンコック等がきちんと閉じられているか確認し、再度（2）の操作を行って下さい。
(3) 不凍液中に、真空ポンプの排気パイプを入れ、吸水レバーを再び「吸水」の位置にします。
※不凍液を約１Ｌ吸わせます。
(4) 不凍液を吸わせ終わったら、吸水レバーを「放水」の位置に戻し、エンジンを再始動させ、５秒程運転して液を全体に行き渡らせて下さい。吸水レバーを「吸水」の位置にして真空ポンプを作動させ、真空ポンプ排気ホースより不凍液が排出されたら吸水レバーを「放水」位置に戻し、エンジンを停止して下さい。
(5) 各ドレンコックを開いて不凍液を抜いて下さい。

（注）1. 寒冷地では、運転中でも真空ポンプが凍結する恐れがあります。そのような恐れがあるときは真空ポンプストレーナキャップを外し、そこから不凍液を１０ｍＬ程入れます。エンジンを始動して吸水レバーを引き、真空ポンプ内にも不凍液を行き渡らせて下さい。

4．付属品取扱上の注意

(1) 布ホース及び根元媒介接手等は使用後十分に水分を切って下さい。
(2) 凍結した布ホース等は湯を注ぎ解凍して下さい。

不調対策

※対策欄が【　】となっているものは必ず、可搬消防ポンプ等整備資格者を有する整備事業所もしくは特約店に点検、整備を御依頼下さい。

エンジンの部

状況			原因・対策
始動困難	燃料系統	吸入燃料の不足	燃料通路が詰まっている可能性があります。燃料タンクキャップの空気孔、及び燃料配管を確認して下さい。 詰まっていたら、掃除して下さい。 【キャブレタの掃除をして下さい。】
		吸入燃料の過多	ティクラ操作が不適の可能性があります。寒冷時以外は操作しないで下さい。また操作時間は２～３秒として下さい。 【オートチョークが不良の可能性があります。】 【キャブレタのフロート、ニードルバルブの不良の可能性があります。】 燃料過多の疑いがあるときは、スロットルを「低速」にし、ティクラ操作をせずに始動を行って下さい。
		燃料の不良	ガソリンが古くなっていないか、又は水が混入していないか確認して下さい。 その場合は、新しい燃料と交換して下さい。
	電気系統	点火プラグの不良	点火プラグが緩んでいないか、電極が汚れていないか、又は間隙が0．7㎜以上になっていないか確認して下さい。 その場合はプラグの掃除、間隙の調整をし、きちんと締め付けて下さい。
		マグネト関係の不良	【フライホイールマグネト、ＴＣＩユニット、イグニッションコイルの不良の可能性があります。】
		その他	２サイクルオイルが、入っているか確認して下さい。 ２サイクルオイルが少ないとエンジンの始動ができなくなっています。
			結線の外れがないか確認して下さい。 外れていたら、配線図の通りに結線して下さい。
			ヒューズが切れていないか確認して下さい。 切れていたら、交換して下さい。
			バッテリが充電されているか確認して下さい。 充電されていなければ、充電して下さい。
回転不調	燃料不足・過多・不良		→「始動困難・燃料系統」参照
	点火プラグの不良		→「始動困難・電気系統」参照
異音発生	部品の磨耗		【シリンダ、ピストン、ピストンリングなどが磨耗している可能性があります。】
	ノッキング		【冷却系統の不良でシリンダが過熱し、ノッキングしている可能性があります。】
シリンダヘッドの異常過熱			【シリンダヘッド、ピストン頭部にカーボンが堆積している可能性があります。】
			【マフラ内部、もしくは排気口が詰まっている可能性があります。】
			【点火プラグの点火時期がずれている可能性があります。】

ポンプの部

状況		原因・対策
吸水できない	連成計が負圧を示す	ポンプと吸水面の落差が９m以上あると吸水できません。 ポンプを設置する際、吸水落差が出来るだけ少なくなるようにして下さい。
		吸水管のストレーナ、藤かご、吸水管内部、吸水口ストレーナが詰まっていないか確認して下さい。 詰まっていたら異物を除去して下さい。
		吸水管内にエアポケットが発生していると、吸水できないことがあります。 その場合は、吸水管を正しく取り回して下さい。
	連成計が負圧を示さない	各ドレンコックが閉じられているか確認して下さい。 開いていたら、閉じて下さい。
		Vベルトが伸びていないか、又切れていないか確認して下さい。 →P. 10「４．Vベルト」参照
		吸水管がきちんと締め付けられているか、また吸水部がきちんと水中に没しているか確認して下さい。 その場合は吸水管をきちんと締め付け、吸水部を完全に水中に沈めて下さい。
		【ポンプのシール、又は配管に漏れがある可能性があります。】
		【真空ポンプが破損している可能性があります。】
放水圧力が出ない	ポンプ	ノズル口径が大き過ぎると放水圧力が出ません。 ノズルが適切か確認し、不適であれば交換して下さい。
		吸水管のストレーナ、藤かご、吸水管内部、吸水口ストレーナが詰まっていないか確認して下さい。 →「吸水できない」参照
	エンジン	エンジンの調子を確認して下さい。 →「回転不調」参照
ポンプが回転しない	ポンプ	ラビリンス部に異物が混入していないか確認して下さい。 混入していたら、排除して下さい。
		ポンプが凍結していないか確認して下さい。 →P. 12「寒冷時の心得」参照
	エンジン	【エンジンが焼きついている可能性があります。】

単位換算表

名　称	旧	新	
回転速度	回転数 rpm	回転速度 rpm	(アール・ピー・エム)
圧　力	kgf/cm^2	MPa	(メガパスカル)
質　量	重　量 kg	質　量 kg	(キログラム)
容　量	ℓ	l、L	(リットル)
消費量	cc/min	ml/min、mL/min	(ミリリットル・パー・ミニット)
真空度	mmHg	−MPa	(メガパスカル)
排気量	cc	ml、mL	(ミリリットル)
出　力	PS	kW	(キロワット)

・1kgf/cm^2 ≒ 0.098MPa
・1kgf ≒ 9.8N
・1kgf・m ≒ 9.8N·m
・760mmHg ≒ −0.1013MPa
・1PS ≒ 0.735kW
・1cc = 1mL

仕　様

P382

規　格	可搬消防ポンプC－1級		届出番号	P1764001	
エンジン			ポンプ		
型　式	EC17		型　式	P382	
区　分	S	M	区　分	S	M
形　式	空冷2サイクル直立単気筒ガソリンエンジン		形　式	高圧1段タービンポンプ	
シリンダー　mm（数―内径×行程）	1－62×58		吸水口径　mm	呼称65（消防用ネジ式結合金具JIS B 9912）	
総排気量　mL	175		放水口径　mm	呼称65（消防用ネジ式結合金具JIS B 9912）	
最大出力　kW	11		性能 規格圧力　MPa	0.50	
燃料消費量　L／h	約4.6		規格放水量　m^3/min	0.54	
気化器	フロート・蝶弁・横向き吸込式		規格ノズル　mm	φ19.0	
冷却方式	強制空冷式		規格回転速度　rpm	約5500	
点火方式	無接点(TCI)マグネト点火		高圧圧力　MPa	0.70	
点火プラグ	NGK B7ES		高圧放水量　m^3/min	0.30	
燃料タンク容量　L	4.0		高圧ノズル　mm	φ13.0	
使用燃料	自動車用ガソリン		高圧回転速度　rpm	約6000	
使用潤滑油	2サイクル専用オイル（分離給油方式）		定格回転速度　rpm	6200（ガバナセット）	
始動方式	セルモータ式 リコイル式	リコイル式	ポンプ室シール	メカニカルユニットシール	
充電能力　V－A	12－1.0	―	真空ポンプ 形　式	4翼偏心ロータリ式	
調速方式	遠心重錘式		給油方式	無給油式	
回転方向	左(出力側から見て)		真空度	吸水高さ 約9m（－0.085MPa以上）	
点灯能力　V－W	12－3×2（メータランプ）12－25（サーチライト）		寸法　mm（全長×全幅×全高）	601×443×544	
バッテリ	12V12Ah	―	乾燥質量　kg	約46	約35

標準準備品

名　称	個数	名　称	個数	名　称	個数	名　称	個数
根元媒介接手	1	バッテリ(S)	1	充電器(S)	1		

付属品

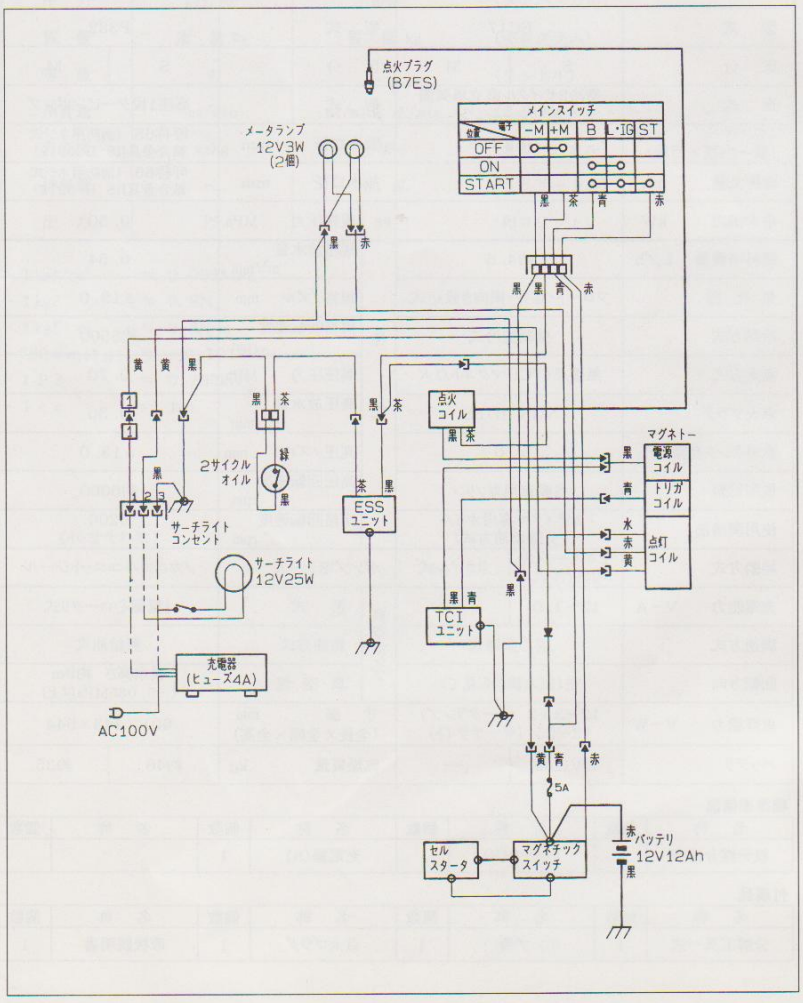
名　称	個数	名　称	個数	名　称	個数	名　称	個数
分解工具一式	1	ポンプ覆い	1	点火プラグ	1	取扱説明書	1

配　線

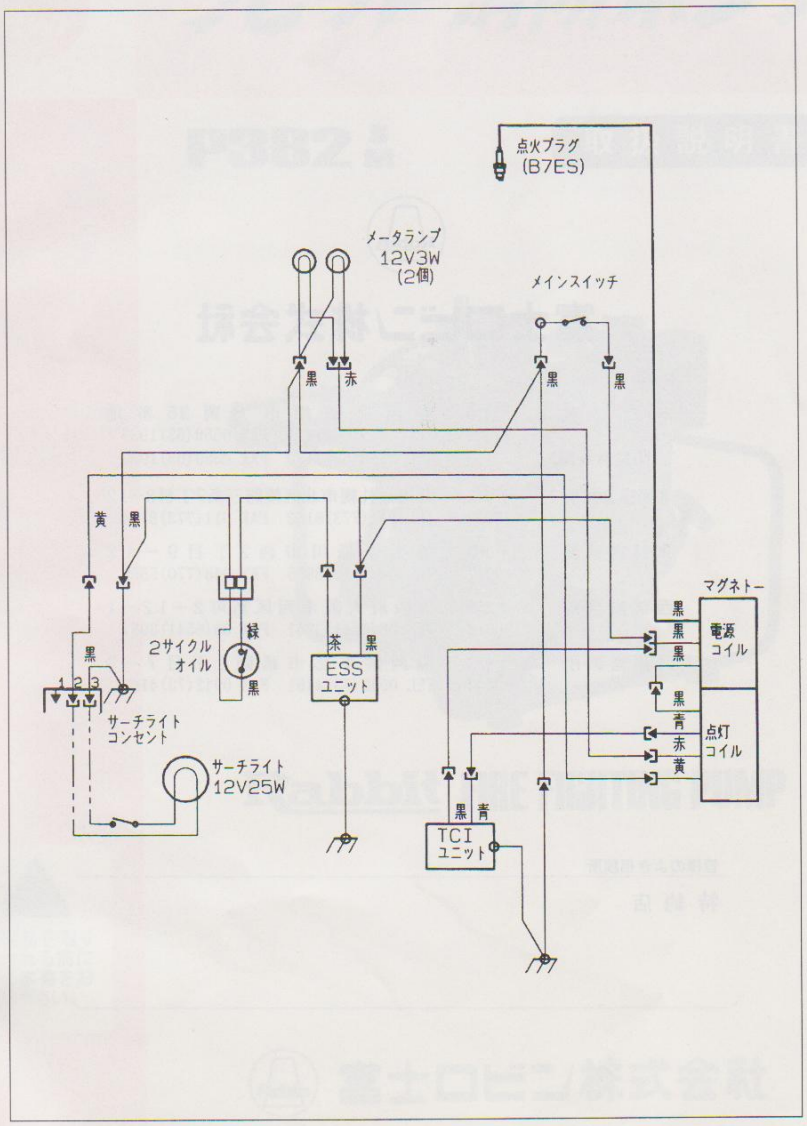
（S）配線図

警告

（注）1. バッテリの⊕、⊖端子への配線を間違えぬよう注意して下さい。
2. バッテリ取付けの際は⊖端子より始め、取外しの際は⊖端子より始めて下さい。



（M）配線図


点火プラグ
(B7ES)
メータランプ
12V3W
(2個)
メインスイッチ
黒
赤
黒
黒
黄
黒
緑
2サイクル
オイル
黒
茶
黒
ESS
ユニット
1 2 3
黒
サーチライト
コンセント
サーチライト
12V25W
マグネトー
黒
黒
黒
電源
コイル
黒
青
赤
黄
点灯
コイル
黒
青
TCI
ユニット

富士ロビン株式会社

本　　社	〒410-8535	静岡県沼津市大岡35番地 TEL 0559(63)1111　FAX 0559(63)1939
（防災営業部）		TEL 0559(63)1130　FAX 0559(63)1939
北海道営業所	〒002-8023	北海道札幌市北区篠路三条7丁目3−12 TEL 011(773)8102　FAX 011(773)8104
東部営業部	〒363-0017	埼玉県桶川市西2丁目9−42 TEL 048(770)5555　FAX 048(770)5556
西部営業部	〒550-0013	大阪府大阪市西区新町2−12−1 TEL 06(6541)3951　FAX 06(6541)3957
九州営業所	〒838-0144	福岡県小郡市祇園2丁目7−3 TEL 0942(73)4161　FAX 0942(73)4163

皆様のよき相談所

特約店

8329505501

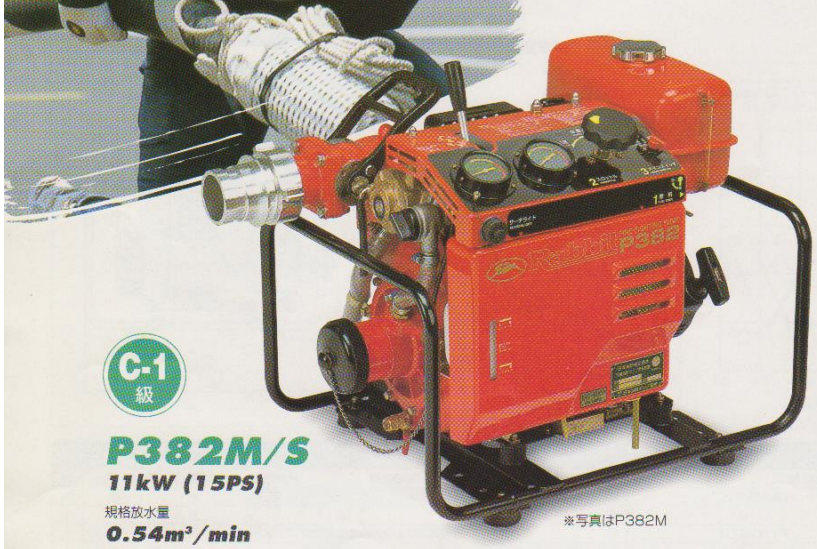
ラビット消防ポンプ P382M/P382S

もぎたて新商品情報紙
ラビットHot!
Vol.118

分離給油方式
オイルレス真空ポンプ

"やさし差"が決め手!!

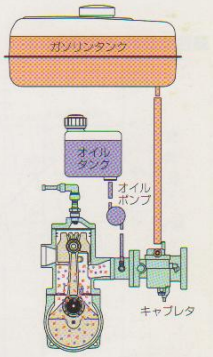
使う人に易しく環境に優しい総合性能と
先進先鋭の充実仕様が自主防災に大活躍。



※写真はP382M

C-1級

P382M/S
11kW (15PS)
規格放水量
0.54m³/min



分離給油方式

■特長-Ⅰ

★燃料混合の手間が無く、スロットルに連動して常に最適な潤滑オイルを供給する分離給油方式を採用。潤滑オイルが無くなるとエンジンが停止する自動停止装置と、オイルタンク内のゴミづまりを防止するストレーナ付で安心。

★クラス最大の大型オイルレス真空ポンプ〈B級クラス〉は排油が無くクリーン（保守点検が容易なストレーナ付）。また、操作力を軽減した新機構の吸水レバー採用で、一段と素早く確かな吸水操作を実現。

★オートチョーク機構とリコイル引き力を軽減するオートデコンプ機構により始動操作も容易。

★操作系をすべて前面に配置し操作手順を番号表示。夜間の視認性に優れたバックライト式計器、微妙な放水圧力設定が可能なステップレス・スロットルダイヤルなど、運転操作が分かり易く正確に行えます。

オートチョーク付キャブレタ

オイルレス真空ポンプ

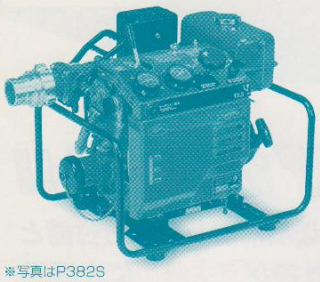
操作系を前面に集中配置

新機構・吸水レバー

可搬消防ポンプ
日本消防検定協会受託試験品　国土交通省総用品合格品　総務省・消防庁防災まちづくり事業適合品
総務省・消防庁消防施設整備費補助事業適合品（国庫補助）

P382M/P382S

ラビット Hot!



※写真はP382S

■特長-Ⅱ

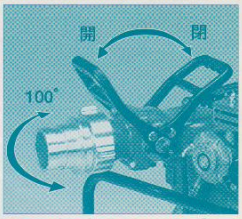
★カバードタイプの新デザインはコンパクトで機能美に満ちた精悍なフォルムです。

★スーパーボールコックバルブは、簡単・迅速・自在な放水操作性で大好評。

★安定性・バランス性バツグンの幅広形フレームは、優れた可搬性と積載性を両立しています。

★定評ある高出力エンジンと高圧タービンポンプにより、吸水・送水時間も短く、クラス最大の放水性能を誇ります。

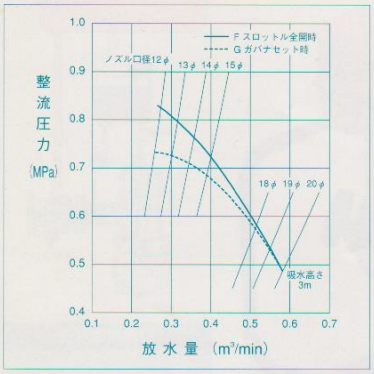
★長期保管時のキャブレタ内の燃料抜きが簡単なワンタッチ式ドレンコックを装備。



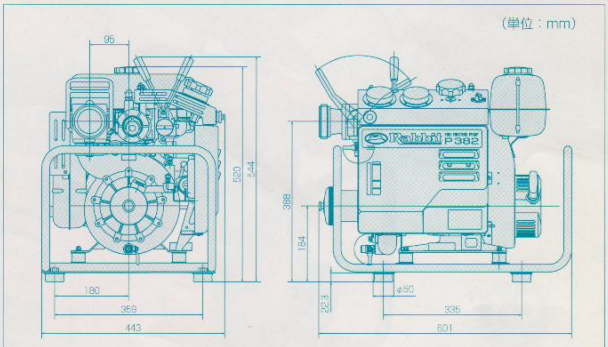
▲スーパーボールコックバルブ

◀ワンタッチ式
燃料ドレンコック

■性能曲線 P382M/S



■装備図 P382M



仕　様

■仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

型式名	P382 M	P382 S
型式	可搬消防ポンプ	
規格	C-1級	
届出番号	P1764001	
寸法（長×巾×高） mm	601×443×544	
乾燥質量 kg	約35	約46
ポンプ		
型式記号	P382	
形式	高圧1段タービンポンプ	
吸入口径 mm	呼称65（消防用ネジ式結合金具 JIS-B-9912）	
吐出口径 mm	呼称65（消防用ネジ式結合金具 JIS-B-9912）	
性能 規格圧力 MPa	0.5〈ノズルφ19〉	
性能 規格放水量 m³/min	0.54	
性能 規格回転速度 rpm	約5500	
性能 高圧圧力 MPa	0.7〈ノズルφ13〉	
性能 高圧放水量 m³/min	0.30	
性能 高圧回転速度 rpm	約6000	
性能 定格回転速度 rpm	6200（ガバナセット）	
ポンプ室シール	メカニカルユニットシール	
真空ポンプ	無給油式・四翼偏心ロータリ式(ストレーナ付)	
真空度 MPa	−0.085（吸水高さ 約9m）	

型式名	P382 M	P382 S
エンジン		
型式記号	EC17	
形式	空冷2サイクル直立単気筒ガソリンエンジン	
シリンダ数−内径×行程 mm	1-62×58	
総排気量 mL	175	
最大出力 kW	11	
燃料消費量 L/h	約4.6	
燃料タンク容量 L	4.0	
気化器	フロート・オートチョーク付	
冷却方式	強制空冷式	
点火方式	無接点（T.C.I）マグネト点火	
点火プラグ	NGK B7 ES	
使用燃料（タンク容量） L	自動車用ガソリン（4.0）	
使用潤滑油	2サイクル専用オイル（分離給油方式）	
始動方式	リコイル式	セルモータ式、リコイル式
充電能力 V-A	−	12-1.0
調速方式	遠心重錘式	
回転方向	左（出力軸側より見て）	
点燈能力 V-W	12−25(サーチライト)・12−3×2(メータランプ)	
バッテリ	−	12V12Ah

標準装備品 名称	数
根本媒介接手	1
バッテリ(S)	1
充電器(S)	1
付属品	
名称	数
分解工具一式	1
ポンプ覆い	1
スパークプラグ	1
取扱説明書	1

⚠ ●取扱説明書をよく読み、正しく安全に使いましょう。●ご使用の前後に充分に保守点検をするよう心がけましょう。●可搬消防ポンプの整備は信頼ある資格者が行いましょう。

お問い合わせは信頼あるラビット特約店へ。

◆ホームページアドレス◆ http://www.mediagalaxy.co.jp/fujirobin/index.html

富士ロビン株式会社

ISO9001 世界品質システム認証取得

本社 静岡県沼津市大岡35 ☎0559-63-1111 FAX.0559-63-1939
防災営業部 静岡県沼津市大岡35 ☎0559-63-1130 FAX.0559-63-1939
九州営業所 福岡県小郡市祇園2-7-3 ☎0942-73-4161 FAX.0942-73-4163
営業統括部 静岡県沼津市大岡581-1 ☎0559-63-1120 FAX.0559-63-1108
（部品商品課） ☎0559-63-1112 FAX.0559-63-1192